

「理数科出前講義（サイエンス・ダイアログ）」を実施しました

今回の出前講義は、日本の研究室で活動してみえる外国籍の研究員の方から、英語による科学研究の講義を受けました。理数科 1, 2 年生が、オンラインで聴講しました。

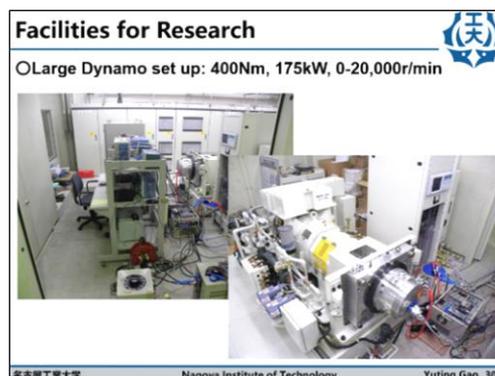
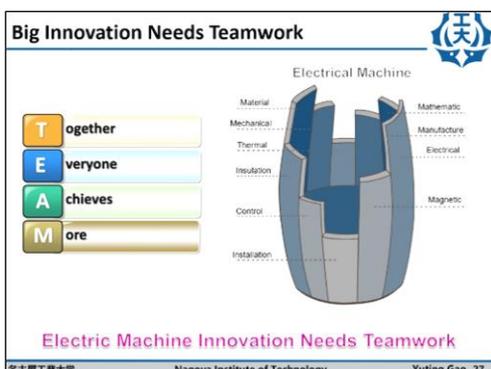
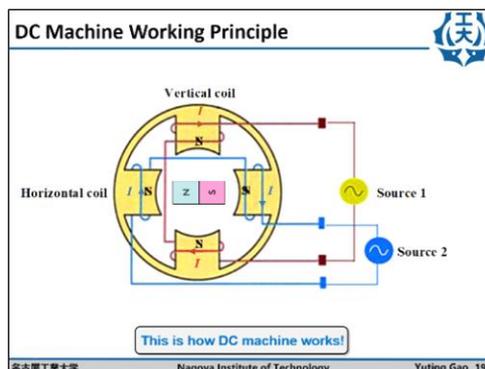
講師：Dr. Yuting GAO(中国籍、女性)

名古屋工業大学 大学院工学研究科

題目：A Brief Introduction to Electrical Machines

(電気機械の簡単な紹介)

概要：電気機械について、利用例を動画などで多数提示され、そのしくみが説明された。また、電気機械発明の祖であるテスラーや自身の研究経験をもとに電気工学研究者としての「イノベーション」の重要性が説かれた。最後に所属する研究室のようすについても話していただいた。



生徒は、自国から出て海外で研究をしようとする講師の志の高さに感心するとともに、日本の研究室を選んだ理由について質問をして、日本の技術力が学ぶべき高い水準にあることを認識できました。

今回の講義を通して、英語力の必要性を強く感じるとともに、国際的な視点に立って日本の科学研究や自身の進路について考えることができた生徒が多いたように思います。

<生徒の感想>

・電気機械によってさまざまなものが動かされていることが分かり、今後さらに必要とされると思いました。私もそれらを使って社会に役立てるようなものを作りたいと思いました。

・英語で専門的な話を聞くのは難しかったが、とても興味ある話でした。電気機械とはどのようなものかをより知ることができた。

・英語は難しかったが、意外に中学でやっていることが出てきたり、図などでわかりやすかった。

・ある物のつくりを変える、どんな小さなことでもイノベーションをできるかを考えることの大切さと、難しさが分かった。

・アイデア一つでも大切だと分かった。ものづくりは実際にやってみたら面白いのだろうかと、少し興味を持った。

・研究において、目的を決めて実験を改善しながら繰り返し行うことや、多方面からの考えが必要だということが分かりました。

・事前に調べておいたおかげで意味は所々分かったが、質問を英語でとなると難しく感じた。英語でコミュニケーションをとれたら世界が広がると感じました。

・(母国語でない)英語を話せすごいと思ったし、日本で研究しようとするのもすごいと思った。

・私たちが普段使っている身近なものにも見えていないだけで電気機械があることが分かった。外国から見ても、日本の電気機械に関する発展はすごいことが分かったので、もっと興味をもって身の回りを見つめてみたい。

・複雑な動きをしている機械でも、直流器のように磁力や電流の一つ一つの力や動きが組み合わさってできていることが分かりました。また、高校生のときにイノベーションをしていたと聞いて驚きました。私も、小さくてもイノベーションを起こすことや、挑戦することを大切にしていきたいです。

